成果をあげる

かいこの共同飼育

「共同飼育を始めてから、収量がふえました。」

どこの稚蚕共同飼育所へいつても聞かれる言葉です。こうした共同飼育所が、町内に十一カ所あり、ことしは晩秋蚕が一万八千二百グラム掃き立てられました。

八月五日、町長はこの飼育所や陸稲の干害後の状況を見て回わりましたが、飼育はすつかり科学的で、能率的で、楽しそうな共同作業ぶりが拝見されました。「ご苦労さまです。ひとつ飼育状況を見せて下さい。」という町長も、すつかり飼育所が気に入つたらしい。

「半分交代で飼育するので、非番のときは、家で安心して仕事ができます。」と、効果は「おかいこ」の成績ばかりではないようです。

これが、さらには共同作業という体験を通じて、この飼育所を楽しい農業、娘もやがらぬ農業、もうかる農業への話し合いの場としていくならば、飼育所という共同作業所は、農業近代化への大きないしづえともなつていくことでしよう。

＝写真下は共同飼育作業

台風期の電気安全の心得

台風の季節になりました。台風は強い風やたくさんの雨が降るので、充分な対策が必要ですとくに、台風のかぜは、ものすごいしゅん間風速があるので、破かい力が強く、立ち木、テレビのアンテナが折れたり、屋根がわらが飛んだりします。

電気の配電線は、だいたい台風の強さにたえられる設計と工事がしてありますが、長い年月がたつうちに配線がゆるんだりして、雨どいとか、屋根などに触れることになります。また、電気の配線がよいときでも、トタン板、看板などがとんで、配線をいためることになります。

そのうえ、たくさんの雨が降つて、しめつたり、ぬれたりすると、水は電気をとおし易いので、火災・感電の危険が生まれてきます。そこで、台風の前後には必ず屋外のテレビアンテナの支線、配電線や支柱がはずれそうになつていないかなどを点検し、切れた電線などは触れないで、電力会社に知らせて下さい。そして台風期の電気災害を防ぎましよう。

（電気安全委員会）

写真は作業中の工員と円内は堀口社長

工場＝堀口縫製所＝紹介 ③

四万山にかこまれた大字天引の奥地、田口部落に堀口縫製所があります。設立は昭和35年11月9日。当時は、それまで平凡なサラリーマンであるかに見えた若干36才の堀口文次郎氏が社長だということで、部落の人は非常におどろいたようです。工場は小さな自宅を使用したもので、当初は十人の工員を使つて紳士ズボンの縫製をはじめたものです。ところが、当時、業界の活気はものすごく、一路上昇線をたどる一方です。敏腕家の堀口氏がこれにおくれをとるはずはなく、業界への信望が高まるにつれ仕事もふえ、工員も増員しました。不満足なのは狭い工場です。そこで堀口氏は意を決し新工場の建築を計画、ついにことしの四月、建物・設備に五百余万円を投じて、これを落成しました。

新工場の面積は二二八㎡で、六十名の工員が働ける計画だそうです。しかし、悩みはつきないようです。工員の獲得です。山間地だけに、特になかなか大変らしい。現在、地元の娘たちがほとんどという二十七名がいつしようけんめい働いていますが、――百名ぐらいにしなければや、工員の待遇も思うようにできなくて――となげき、かつ理想を述べる堀口社長にとつてはいちばんつらいことかも知れない。社長は――他の縫製所より給料も安くなく、保険にもみんな加入している――というのですが……。

一日平均一八〇本の紳士ズボンができ上り、東京の問屋に納められて三越あたりで売られているそうですが、注文に応じきれぬほどの忙しさだというから将来が楽しみです。今後の発展をお祈りします。

※この工場紹介は町内の工場について行なうもので掲載順序は不定です。

新屋地区は群馬県新生活運動協議会の指定地区となつて第二年目。婦人会では、地区住民のもりあがる熱意と会員の強力な推進力によつて、いよいよ地についた成果を着々あげています。

新生活運動とは「きようよりはよりよいあすを築くため」のもので、目標や方法も多種多様です。私たちの目標はまず、小地区ごとの話し合いで、次のようにきめました。そして、これらのテーマに基づいて実績をあげ、一歩一歩前進することにおいて、新屋地区全般に明るい楽しい家庭や、社会を実現していこうというものです。

◇地区ごとの実践テーマ◇

（白倉地区）　育児とよいしつけ、青少年を正しくみちびこう

（引田地区）　料理研究、生花

（久保地区）　としよりを

家庭生活を明るくする運動

いたわる、みんなでうたおう

（田口地区）　農村のレクリエーション、生花

（天引地区）　公衆道徳を守る。カやハエをなくそう。

（下平地区）　台所の改善時間を守る。

（金井地区）　正しい家族計画、時間を守る。

（造石地区）　カやハエをなくそう、正しい家族計画。

（庭谷地区）　食生活の改善、農村のレクリエーション

（大山地区）　農休日をつくろう、正しい家族計画。

この運動を推進していくために国庫補助金と、町から補助金をいただいています。私たちのあゆみは牛歩のように遅くとも、いつも明るいあすを期待して、みんなの力で、みんなが一歩一歩前進していこうとはりきつています。

皆さまのご協力と、ご支援をお願いいたします。

（新屋婦人会会長江原くら）

もりもり食べよう

秋は食欲のままに

残暑のきびしさはまだまだですが、朝夕はすつかり秋の気配を感じます。

おとろえた食欲もだんだん回復して、何を食べてもおいしいものです。これが、いわゆる身体の英知であり、生理的要求でもあるわけです。この自然の要求にしたがつて、食べたいだけ十分に食べることが必要です。といつても、胃腸の弱い方は、あまり無理すると、かえつて夏の疲労を回復させることができません。人によつては、ふとりすぎるからといつて、食べたいのを無理に抑えている方がありますが、若いうちは血圧などにも心配がないのですから、できるだけふとり、少しぐらいの病気にも負けないからだをつくつておくことです。

とにかく、これからが夏の疲労を回復するときですから、思いきつてなんでも食べてみることです。

それでもとれないときは、水気をきれいにとつて火にかけ、少量の油を焦げた部分にしみ込ませますと、簡単にとれます。

ばかにできない寄生虫

寄生虫には、回虫、十二指腸虫、ぎよう虫、さなだ虫、日本住血吸虫、ジストマなどがありますが、とくに多いのは回虫、十二指腸虫、ぎよう虫の三種類といわれます。

回虫は、苦痛を感じないこともありますが、数が多くなると腸がつまつたり、腸をつき破つたりして恐ろしい病気をおこすこともあります。

十二指腸虫がいると、貧血をおこし、体の抵抗力が衰えるので、いろいろな病気にかかりやすくなります。

ぎよう虫がいると、卵を肛門の周囲に生むため、子どものねつきが悪かつたり、不快なカユミのため、気げんが悪くなります。

目は心の窓

目は健康のシンボルとか、目は心の窓といわれます。あなたの目が、いつもいきいきと美しく輝くようにしておくためには目を愛し、目を大切にしなくてはなりません。

十月十日は、目の愛護デーです。この日を中心に目の衛生知識を普及するため、目の愛護運動が全国的に行なわれます。

この運動は、昭和六年に中央盲人福祉協会が主唱して、盲人の福祉増進と失明を防止することを目的としてはじめられたものです。

私たちが生活していくためには、目は実に大切です。人生の中途で失明した数多くの方々が失望・落たんのあまり死を覚悟した事実でもわかります。

このように悲惨なことがないようお互いに目を愛し、大切にして、視力保護に再認識したいものです。

お焦げのとりかた

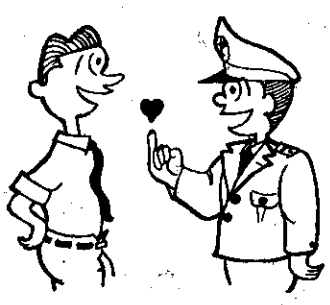
ナベなどに焦げつきができたとき、あわててたわしでこすつたり、ほうちようではがしたりすると、ナベがいたみ、また、時間がかかります。

こんなときは、ナベのなかに石けん水を少量入れ、しばらく火にかけておきますと、きれいにとれます。

卵の見分け方と保存

新鮮な卵をみわけるには、カラのざらざらしているものや、光沢のないもの、すかしてみて明るいものを選ぶことです。卵の保存はカラがよごれているものは、水で洗わないでやわらかい布でふきとり、とがつた方を下にしておくことです。

備えあれば……



A　「陸曹だつてきみ、まだ23か4才の青年だからね。それがどうだい、何10万円て金をにぎつているのは相当にいるからねえ。」

B　「へーえ。がつちりしてるねえ。」

A　「ぼくだつて、その仲間だよ。そうだろう。自衛隊が日本の平和と独立を守るために備えを固めているように、ぼくだつて、家庭の平和を守るために、貯金しとくのさ。」

B　「なんだい、きみはチヨンガーのくせに、家庭の平和だなんて……」

A　「にぶいよきみは。えへんみよちやんと結婚するときのことである。ハイ!!」

※自衛官を募集しています。希望者は、役場の係へご連絡下さい。

体育祭を盛りあげよう。
全町民の保健と
体位向上のために……
親ぼくをはかり、平和な
甘楽町をつくるために……

◇競技種目　陸上、剣道、柔道、おどり
◇日　時　十月七日あさ八時から
◇場　所　小幡小学校校庭
◇主　催　教育委員会と体育協会